

緑を育てるエコ活動に

町の花、芝桜の活用を



問

エコアイルランド北海道を目指す道は、

三つの環境スピリッツを掲げた。本町では手づくりの町推進委員会の花いっぱい運動が簡単エコ活動が出来る。うるおい、やすらぎを感じられるとして、緑の育成保全の行動を進めている。街路の植え込みに環境浄化植物である芝桜やサンパチェンスを他の花と混植して継続すればやがて花街道になると考えはないか伺う。

①芝桜は旧忠類や幕別町ともに町の花であり、スキー場の斜面をピンクの絨毯にした時代があった。この栄華盛衰の花として歴史の中に埋もれた。芝桜の歴史と今後の活用について伺う。

②止若橋上下流斜面やJR未利用地における雑草防止防犯対策ゴミ投棄防止に役立つ芝桜の植栽を。

③町民一人30株の芝桜を行政はリーダー的役割として、年間3万株を町民に無償提供し十年間継続して緑の育成の基本の花として再び花いっぱいにする考えはないか。

④歴史は眠らない、必ず繰り返す。もう一つの町の花スズランは生態系の激変で減少している。郷土の花カタクリ草、エンレイ草、ミズバショウもゴミの中でひっそりと生き残っている。エコ活動の中でもごみ処理は、中心的役割を遂げているので生育地を重点的に清掃し芝桜や郷土の花の生き残りを計画する考えはないか伺う。

幕別町では、昭和58年から昭和63年までに、明野ヶ丘スキー場に3万株を植る。このように町民と行政が力を合わせて芝桜の植栽をしてきたが、公園一帯の土質が粘質系礫質土であるため性質が思わしくなかったこと、さらには維持管理に多額の費用と手間を要しましたことから、ゲレンデの斜面保護に適した生芝に変更したという経緯があり、こうした事情は、忠類の白銀台スキー場においても同様であったと伺っている。

このようなことから、今後、町の公共用地に芝桜を広く植栽することについては、難しい面があるものと考えている。

町長

①かつて忠類村では昭和56年に、幕別町では昭和61年に、開基90年記念事業の一環として、それぞれ村の花、町の花として芝桜が選定される。

幕別町では、昭和58年から昭和63年までに、明野ヶ丘スキー場に3万株を植る。このように町民と行政が

め、十分な法面の保護と管理上の観点から、芝桜の植栽は適当ではないと考えている。

また、JR沿線の未利用地については、JRが保有する用地はJRが安全のための用地幅を十分に確保し管理しており、現在は事故等の心配もあり、野菜畑等の新たな個人占用を受け付けていないと聞いている。

このため、これらの用地を町が借り受けるなどして植栽を行うことは、難しいものと考えている。

しかしながら、地域の方々が花の植栽を希望する場合には、現場の状況等を確認するなどの対応していきたい。

③エコ運動いろんな面で環境整備するにあたっての植樹、植栽は大変有効なことだと、意義あることだというふうにも思っている。

ただ、いろんな花があり、芝桜を全てに町が用意して無償で植えていくというところが、果たして町民の皆さんが本当に理解していた

けるかどうか、いろんな課題はあるのだろうかというふうに思っている。

私どもとしても団体の皆さん方の協力をいただきながら、町民の皆さんに理解をいただく中で、こうした運動がどんどん広がっていくことが大変望ましいこと思っている。

当面、そうした様子を、状況を見守りながらこれからもまたそれらの対応に当たっていききたい。

④幕別の貴重な自然、あるいは幕別の花を大事する運動は必要と思っている。

ゴミの問題についても、これは本当に根本の町をきれいにする、環境を整備の一番の根本的な問題だろうというふうにも思っている。

ゴミを投げない、あるいはそうした自然を大切にすると、環境を守っていく、当然のことながらこれからの時代では大変行政としての大きな課題だろうというふうに認識をしている。

芝桜については、今回提言いただいた経緯もある中で、十分内部で検討し今後対応していきたい。